

四国中央市国際交流ビジョン

前期施策及び事業の点検・評価

平成31年3月

四国中央市国際交流ビジョン委員会

委員長 深堀 秀史

四国中央市国際交流ビジョンは平成26年度から平成35年度までの10年間で4つの目標と重点施策及び18の施策について事業展開を行うことになっています。平成30年度において4年間の取り組みの実施報告を行うこととなっているため国際交流ビジョン委員会において事業の点検・評価を行ったので下記のとおり報告します。

ビジョン（都市像）（どのようなまちを目指すのか）

ともに住民として考え創造するまち

四 国 中 央 市

1. 事業の点検・評価

目 標 1 ～世界とつながるまち～

あらゆる分野の国際交流、国際協力の推進

重点施策 国際感覚・認識のかん養 国際交流等参加者1万人

- 施 策
- 1 友好・交流都市との交流促進
 - 2 住民の国際感覚、国際認識のかん養
 - 3 国際教育の推進
 - 4 文化、スポーツ、学術交流の推進
 - 5 青少年交流の推進
 - 6 国際交流行事の開催
 - 7 国際協力の推進

国際感覚、国際認識の醸成に関して、ホームステイの受入れやCIR（国際交流員）の訪問事業について委員から高い評価が得られました。今後、住民へのPRの促進など、事業のさらなる充実を期待します。

国際教育の推進に関して、外国語指導助手（ALT）の人数も増え、各中学校に配置されていることから、国際教育を進めるために十分な体制が整いつつあると評価されました。ALTの活用として、小学校における活動の充実が提案され、小学校との連携体制の強化が望まれます。

国際交流・国際協力の推進に関して、青少年交流の推進では、継続して実施されているニュージーランドへの中学生海外派遣事業やホームステイ受入の実績が高く評価されました。また、しこちゅ〜国際交流フェスタ等の交流イベントや外国人を対象とした防災訓練、日本語教室等の行事は技能実習生からも喜ばれていると報告がありました。市内在住の外国人が安全・安心に暮らすことのできるまちづくりに向けて、これらの施策の一層の充実を期待します。文化、スポーツ、学術交流の促進に関して、国際会議等の誘致はまだ実現しておらず、宿泊施設の手配や言語対応を考慮すると難易度が高いと思われていますが、中国の宣城市との交流の中で、平成27年度の訪中で三島高校の書道パフォーマンスを披露して好評を博したとのことで、今後、「紙のまち」ならでの国際交流の形を模索する必要があると考えられます。

国際協力の推進では青年海外協力隊に2名派遣されており、JICA高校生セミナーによる隊員の体験談の講話は人材育成に繋がっていると評価されました。

目標 2 ～国境のない心通じ合うまち～

多様な文化が共生し安心・安全なまちづくりの推進

重点施策 日本語及び日本社会・文化に関する学習支援の強化や災害への対応

施策 1 外国人にとって暮らしやすいまちづくり

2 国際化に対応したサービス、システムの整備

外国人にとって暮らしやすいまちづくりに関して、多言語対応のゴミカレンダーの作成、防災マップ等の市広報紙や日本語学習に対するボランティア活動、災害時の外国人研修等の整備が順調に進められています。一方、病院などの施設における外国語対応がまだ十分でないとの指摘がありました。防災施策に関して、上記の外国人を対象とした防災訓練の実施に加えて、防災無線の多言語化や多言語による災害情報のメール配信などの要望がありました。また、災害時に住民が外国人とコミュニケーションを取るための「やさしい日本語講座」等の取り組みを一層充実させることが望まれます。

国際化に対応したサービス、システムの整備に関して、市のホームページの英語化は評価されましたが、英語を理解できる外国人ばかりではないため、市内の外国人の状況に応じた多言語化が望まれます。英語・中国語で表記した観光等のリーフレットが整備されていますが、市内で最も多い外国人はベトナム人であることから、観光案内図などもベトナム語の表記があればよいとの意見がありました。また、外国人が容易に情報を得るために、公共施設でW i - F i を利用できるよう、設備の充実と周知も必要と思われます。

目 標 3 ～ともに栄える経済交流のまち～

企業の海外展開に関する支援機能の強化

重点施策 企業と海外展開支援機関等との連携強化

- 施 策**
- 1 地域産業基盤の整備
 - 2 地域産業の国際化の推進
 - 3 外国人実習生受け入れへの協力
 - 4 多言語による情報

四国中央市工業振興ビジョンが作成され実施されていることや、産業支援課が開催するビジネスセミナーにおいて海外展開に関する研修がなされていることについて企業から高い評価が得られています。外国人実習生受け入れへの協力に関して、技能実習生の職種追加について産業支援課が支援していることや、しこちゅ～国際交流フェスタを通じて理解促進を図っていることは評価されました。

目 標 4 ～みんなでつくる協働のまち～

持続可能な推進体制づくり

重点施策 民間国際交流団体等のネットワーク化および推進母体の強化や充実

- 施 策**
- 1 庁内の推進体制の整備
 - 2 外国人職員の活用
 - 3 協働による推進体制の整備
 - 4 外国人の地域リーダーや市民ボランティアの育成
 - 5 国際交流施設の整備や活動資金の確保

外国人職員の活用に関して、国際交流員が多方面で活動していることに非常に高い評価が得られました。国際理解講座の受講者については、国際交流に興味の無い住民に対してどのようにアプローチすべきか問題提起がありました。ALTについては、2020年の英語教育改革への対応もあり、小学生に対する活用をさらに充実してほしいとの提言がありました。

協働による推進体制の整備に関して、国際交流協会や国際化推進実行委員会等の団体において、ホームステイ受入や多文化共生事業が行われていることが評価されました。外国人の地域リーダーの育成に関して、技能実習生が市内在住外国人の多数を占め、数年で帰国するためリーダーの育成は制度上難しいとの意見がありました。国際交流施設の整備について、市民交流棟が建設されたことや新文化ホールが建設されることから、これらの施設が外国人にも広く活用されていくことを期待します。

各委員からの市役所各課への要望項目は下記のとおりです。

- ・ 防災無線のメール配信などの多言語化。
- ・ ALTの小学生への更なる活用。
- ・ 市内各所で国際理解講座等の開催。
- ・ 防災マップの多言語化とホームページからのダウンロード。
- ・ ベトナム語表記の観光案内図等。
- ・ 海外展開したい企業へのビジネスセミナー開催。